

「教育研究上の目的」及び「教学上の三つ方針（3ポリシー）」について

(ユーザー感性学専攻)

教育研究上の目的

外界の事象（人・もの・こと・場）に対する感受性及び感性に基づく統合的な心の働きである「感性」の研究教育を通じ、さまざまな知をユーザーの感性と融合させ、ユーザーの視点に立った人間理解をふまえた上で個人と社会の満足を創造できる新しい高度専門人材を育成する。なお、本専攻における「ユーザー」とは、自然、社会、人文科学や技術の知を使い役立てる個人、グループ、組織などを指す。

学位授与の方針【ディプロマ・ポリシー】

【修士課程】

本課程を修了した者は、次の能力を備える。第一に、知を統合してユーザーの感性と融合することにより、ユーザーの福祉、満足を実現して、新たな科学、社会、経済を築いていくための企画力、コミュニケーション力、協働力、指導力などを備えていること。第二に、ユーザー感性学としての「感性を科学的な視点から捉えることのできる力」、「人と人、人との又は人と環境のあいだの関係性を感性の視点から豊かにできる力」及び「ユーザーの視点に立って感性価値創造のプロセスをマネジメントできる力」を身に付けることで産官学領域において重要な役割を担えること。

上記の能力は、さらに具体的に下記の項目からなる。

(1) 知識・理解

- ・学生本人の出身分野や関心領域を活かし、ユーザー感性学という専門分野を説明できる。
- ・実社会の現実の課題に対し、チームで取り組み、ユーザーの感性を用いて高度な解決策を提案できる。
- ・PTL（プロジェクトチームラーニング）及びインターンシップにより、実践的な場面で有用な知識と包括的な社会人基礎力や応用力を習得している。
- ・感性科学コース、感性コミュニケーションコース、感性価値クリエーションコースの3コースにおける各専門性を活かした、より高度な知識と実践力を習得している。

(2) 技能

(2-1) 専門的能力

- ・企業での感性評価技術の開発及び製品評価の研究開発ができる。
- ・企業のマーケティング調査及び製品企画に関わる企画研究ができる。
- ・医療、福祉、教育現場などにおける課題解決の為の調査・研究ができる。
- ・大学等の公的研究機関において教育または研究ができる。

(2-2) 汎用的能力

- ・感性を科学的な視点から捉えることができる。
- ・人と人、人との又は人と環境の関係をユーザー感性学の視点からとらえ、豊かなものにしていく能力がある。
- ・ユーザーの視点に立って感性価値創造のプロセスをマネジメントできる。
- ・企業や行政、地域社会に入り、現場が抱える課題を体験することや、現実的な課題にチーム

で取り組み、問題発見、仮説設定、集団的な知的創造、解決策提示の一連のプロセスを主導的に推進し、社会との新しい関係を構築できる。

(3) 態度・志向性

- ・ユーザー感性に立脚し、さらなる知識や技術の修得ができる。
- ・幅広い見識と教養を身につけ、人の感情や物事の本質を理解し組織を動かすことができる。

【博士後期課程】

本課程を修了した者は、次の能力を備える。第一に、知を統合してユーザーの感性と融合することにより、ユーザーの福祉、満足を実現して、新たな科学、社会、経済を築いていくための企画力、コミュニケーション力、協働力及び指導力に加え、それらを統合する研究開発能力を有していること。第二に、「感性を科学的な視点から捉えることのできる力」、「人と人、人との又は人と環境のあいだの関係性を感性の視点から豊かにできる力」及び「ユーザーの視点に立って感性価値創造のプロセスをマネジメントできる力」に基づき、それらを統合する新しい専門領域を産官学領域において研究、実践し、国内のみならず、国際的な研究活動に積極的に貢献できることと。

上記の能力は、さらに具体的に下記の項目からなる。

(1) 知識・理解

- ・実践的な知の習得により、ユーザー感性学に特化した高度な課題解決力を有する。
- ・博士（Ph.D.）として国際的に通用する高度の専門性と広範で深い文化的・知的素養を持つ。
- ・「ユーザー感性学」に関するより高度で統合的な教育研究と、感性科学、感性コミュニケーション、感性価値クリエーションの3領域の各専門性を相乗的に強化し、より高度な研究成果等を構築できる。

(2) 技能

(2-1) 専門的能力

- ・国際性と社会性を共存するリベラルで専門的な研究・教育能力を有する。
- ・即戦力となる「高度実践調査」、「高度実践企画」及び「高度実践研究能力」を持つ。
- ・感性に関わる科学・芸術・文化・デザイン・コミュニケーション等について深く理解する解釈力・鑑賞力・分析力を有する。

(2-2) 汎用的能力

- ・感性科学領域、感性コミュニケーション領域、感性価値クリエーション領域の3領域の統合により、さらなるユーザー感性学の幅広い知識、研究能力及び実践能力を持つ。
- ・国際社会が求めるユーザー感性の研究能力及び実践能力を持つ。

(3) 態度・志向性

- ・大学や企業などの研究機関における実践型研究者あるいは教育者、即戦力としての活躍が十分に期待できる。
- ・国際社会に必要とされる問題解決型のプロジェクトチームのリーダーとして指導的な立場で参加し、プロジェクトを遂行する能力を持つ。
- ・市民社会の中でフロンティアを開く気概と高い動機を有する。

教育課程の編成・実施について基本方針【カリキュラム・ポリシー】

【修士課程】

感性についての教育研究を先導的に展開するために、「実践型教育の実施及び大学と社会の連携推進」というミッションを設けている。

教育課程の編成実施に関しては、問題の発見・分析・解決を自主的に行う姿勢を有し、応用を常に意識して基礎理論の学習に取り組めるよう、学生 1 人ひとりに応じた、きめ細かい履修指導を行う。また、社会での活躍やキャリア像を念頭においた効果的な学習計画を立てられるように、多様な履修モデルを用意している。さらに、ユーザー感性学の広範な研究分野を理解するのに不可欠な基礎知識の習得とあわせ、基礎知識の実践的活用に向け、実社会の課題に対し、その解決を目指してチームで取り組む、PTL（プロジェクトチームラーニング）及びインターンシップにより、実践的な場面で有用な知識と包括的な社会人基礎力や応用力の修得・開拓を促すことを基本方針としている。

学修成果は、授業科目の特性に応じて、試験、レポート、プレゼンテーション等に基づいて総合的に評価する。

【博士課程】

感性についての教育研究を先導的に展開するために、「実践型教育の実施及び大学と社会の連携推進」というミッションを設けている。

教育課程の編成実施に関しては、「感性に関する客観的測定・分析・評価による感性の研究」、「多様なユーザーを支援し、感性を育む快適で安心できる居場所とコミュニティ、製品・サービスや知財の創造」、「人の感性を基にした心の充足・感動・共感という価値創造による、産業や地域社会、生活の革新」を目的とした、より高度で統合的な教育研究を行うために、本専攻修士課程にある 3 つのコースの専門性の「特化」力とそれぞれのコースの積極的な「統合」力を高め、実践型能力に加え、研究型能力の修得・開拓を促すことを基本方針としている。

学習成果は、プレゼンテーションやディスカッションを通して、思考力、独創性、コミュニケーション能力の評価に基づいて総合的に評価する。

入学者受入れ方針【アドミッションポリシー】

次のような資質と問題意識を持つ人材を対象として専攻毎に入学者選抜を行う。

- (1) 専攻の専門に係わる諸問題を学際的に解決し社会に成果を還元したいという意欲を有していること
- (2) 社会において先導的役割を果たしたいという意欲を有していること
- (3) 柔軟な発想力、基本的なコミュニケーション能力、幅広い教養を有していること
- (4) 社会人にとっては、企業や地域社会での経験、問題意識を大学において理論的に進化・体系化させたいという意欲を有していること